

事務事業マネジメントシート(平成28年度実績と平成29年度計画)

平成29年 5月19日更新

事務事業名	子どもの読書活動推進事業		<input type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input checked="" type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	2 福祉の健康	所属部	教育委員会事務局	課長名 岐部 則夫			
	施策	4 子育て支援の充実	所属課	生涯学習課	担当者名 緒方 初美			
	施策の柱	17 地域における子育て支援	所属班	図書館班	(内線) 1540			
予算科目	会計	款	項	目	事業連番	根拠法令	成果優先度評価結果	⑥
	一般	10	5	8	10600		コスト削減優先度評価結果	⑨
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 28年度で終了 <input type="checkbox"/> 28年度から開始		事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)				

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	<p>*子どもの読書活動推進法が平成13年12月に制定され、各自自治体での読書活動の推進が義務づけられた。</p> <p>*24年度予算から紙芝居実施事業、春の夜の図書館読書探検隊、夏休みスペシャルおはなし会、お父さんお母さんのための読み聞かせ塾、あかちゃんのためのおはなし会、あかちゃん講座等の事業を統合した。</p> <p>*24年度予算から事業名を「子どもの読書活動推進講座実施事業」から「子どもの読書活動推進事業」に変更した。</p> <p>平成29年度より合志市立図書館の指定管理者制度が導入されるため、主な事業は指定管理に移行され、「子ども読書活動推進計画策定」と「合志市童話発表大会」の2事業のみ市の事業とする。</p>
【業務の流れ】	講座内容の検討・講師依頼・参加者募集のチラシ作成及び配布・申込受付・資料作成・会場設営・講座当日の進行・結果報告・謝金支払事務
【主な予算費目】	
【意見や要望】	事業対象者から大変評価を得て、今後、事業対象者範囲の拡大が望まれている。また、子どもの読書活動を推進するのにふさわしい講座だと思う。

1 現状把握の部 (DO, PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 28年度実績(28年度に行った主な活動) (DO)	29年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)
0歳児から小中学生、家庭、学校、幼稚園、保育園関係者へ読書講座やおはなし会を開催した。子ども読書活動推進講座の第1回目として「お父さんお母さんのための読み聞かせ塾」に25名の参加、第2回目として「あかちゃんのための読み聞かせ講座」に17名の参加があった。	講師を依頼して、子どもの読書活動推進講座を3回計画する。春の夜の図書館読書探検隊、紙芝居事業、親子でふれあう講座の実施、地域の子どもたちのボランティアによる夏休みのスペシャルおはなし会を行う。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) (単位)	予算の主な増減の理由
→ ア イ	時間外手当の増額、童話発表大会発表者記念品費等の増額、使用料及び賃借料の増額
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	② 対象指標(対象の大きさを表す指標) (単位)
合志市内の乳幼児から小中学生・家庭、学校・幼稚園・保育園関係者	→ ア イ
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標) (単位)
乳幼児からすべての大人が、子どもにとっての「読み聞かせ」や「手遊び」などにふれあい、積極的に子どもの豊かな心を育むようにする。子どもが自発的に読書に取り組んだり、お話しの世界に触れることにより読書への興味・関心を高める。	→ ア イ
*③成果指標設定の理由と29年度目標値設定の根拠	
・講座参加者数より、合志市内在住の子どもや保護者等が、豊かな言葉や感性を磨くことの大切さや、読書の意義について学ぶ機会を得たか把握するため。	
・周知方法の改善により多くの参加が望まれるため。	
総トータルコスト 全体計画 ～ 年度 0	

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	26年度 実績(決算)	27年度 実績(決算)	28年度 目標(当初予算)	28年度 実績(決算)	29年度 目標(当初予算)	30年度 予定	31年度 見込	32年度 見込	
① 活動指標	ア										
	イ										
② 対象指標	ア										
	イ										
③ 成果指標	ア										
	イ										
投資 入 費 量	財源内訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
	人件費	一般財源	千円	198	209	252	128	206			
		(A) 事業費計	千円	198	209	252	128	206	0	0	0
		(A)のうち指定経費	千円	66	50	62	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	66	50	62	0	0	0	0	0
		正規職員従事人数	人	6	5	3	6	0	0	0	0
延べ業務時間	時間	890	950	30	1,324	0	0	0	0		
(B) 人件費計	千円	3,545	3,527	119	0	0	0	0	0		
トータルコスト(A)+(B)	千円	3,743	3,736	371	128	206	0	0	0		

事務事業名	子どもの読書活動推進事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	--------------	-----	----------	-----	-------

2 評価の部 (CHECK)

*原則は28年度の事後評価、ただし複数年度事業は28年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①28年度目標達成度評価	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】 講師の知名度に加え、0.1歳児をもつ親の「読み聞かせ」に対する意識も向上している。
	②29年度目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 ブックスタート事業との相乗効果もあり、事業対象者の「子ども時代の読書の意義」についての関心が高まっている。
有効性評価	③成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 ・時代の要求を先駆けて捉えた内容の事業であるので、反響は大変よかった。幼保小中学校のPTAとの連携により事業を実施したのは、図書館と学校・家庭をつなぐ意味で意義がある。 ・今後は、対象範囲を広げより参加しやすい状況を作る必要がある。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある⇒【理由】(具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似の目的(対象と意図)を持つ事業が他にない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 講座はボランティア養成にもつながる内容であり、費用対効果の点でも効率的である。
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 必要経費は講師料であるが、魅力ある講座内容と集客率を考えると、講師の知名度も肝心な要因である。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 図書館法により無料の原則に則って運営している。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 企画・広報・会場準備等は図書館で行っているが、小・中学校PTA、幼・保育園へ参加動員を依頼しており事業のやり方や手段は適正である。

3 評価結果の総括 (CHECK)

目標値を大きく上回る参加者があり、今後も継続して行きたい。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(ACTION)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- 廃止 休止 目的再設定 事業統廃合・連携 事業のやり方改善(有効性改善)
事業のやり方改善(効率性改善) 事業のやり方改善(公平性改善)
現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(2) 改革・改善による期待成果
(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			
	低下			

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策